

各教科それぞれの先生がみんな個性的で、とても工夫された分かりやすい授業でした。特に中学では生徒一人ひとりに手厚く指導していたおかげで、高校の先取り学習もそこまで壁を感じることなくスムーズに理解できました。正直、授業をきちんと聞いていれば塾などに通う必要もないと思いました。私は中学の時、結構しつこく質問に行っていた時期がありました。しかし先生は嫌な顔1つせず、むしろ褒めていただいたことがあり、とても嬉しかったのをよく覚えています。高3の進路指導では、もともと自分のやりたかったことが途中で大きく変わり悩んでいた時、担任に「夢が途中で変わるのは全然悪いことじゃないよ」と言われてとても安心しました。そして私のやりたいことに関する大学の学部学科のパンフレットをすぐに印刷してくださったり、他教科の先生にお聞きしたアドバイスを伝達していただいたりと本当にありがたかったです。おかげで、いまいち定まらなかった自分の進路の情報ははっきりと文章に著すことができました。

部活動は化学部に所属していました。化学部では、茨城大学で透明の炭酸飲料の中和滴定の実験結果を発表しました。他校の先生に自分たちの実験を発表したり、質疑応答をされたのはとても緊張しましたが貴重な経験でした。また高2時の研修旅行では、カナダに行って1週間ホームステイをしました。初めは正直ホームステイするのはとても不安でした。しかし、行ってみるとみんな優しく、私のつたない英語とジェスチャーを頑張って理解しようとしてくれる姿に感動しました。また、普通に旅行に行っただけでは体験できないであろうキリスト教の浸水式を見たり、地元の穴場レストランに連れて行ってもらったりととても楽しくてあっという間の1週間でした。ホストファミリーとはSNSで今でもよく話しています。文化祭やクラスマッチではクラスの中で対立が起きたこともありました。しかし今考えると、そのくらいみんなが真剣に取り組んでいたんだと気付き良い経験だったなと思います。それらを乗り越えたクラスの団結力はより結束したものになったし、さらにクラスの仲が深まりました。

茨中・茨高の良いところは、学校全体で母校愛が強いところです。茨中・茨高の基本方針である「報恩感謝」は校内の誰に聞いても答えることができるだろうし、私自身、常に周りの人や環境に感謝の気持ちを持つようになりました。また、創立者の飯村丈三郎先生のお墓に年に何回かお参りするなど、創立者へ敬意も忘れないという精神も素晴らしいものだと思います。また、施設の充実も良いところだと思います。特に図書館にはとてもたくさんの本があり、高3になって進路に関連する資料集めをする際とても役立ちました。もう少し早くその存在に気付いていれば、もっと色々なことに興味をもって視野が広がっただろうなと後悔しています。

大学に進学して私はメインの経済学だけではなく、そこに関係してくる心理学や統計学、社会学など幅広い視点で学ぶことで自分の固執した考え方を広げたいと思っています。今は公認会計士になりたいと思っていますが、大学で色々な事を経験したらまた変わってくると思います。その変化を恐れずに柔軟に対応して自分が将来なりたい夢を確実にできるよう頑張ります。